

部活で号外作製

清風学園文化祭 500部配布



清風学園文化祭で「清風新聞」の号外を手にする生徒ら―大阪市天王寺区（水島啓輔撮影）

で、さまざまな形で新聞を教材として活動している。今回の「清風新聞」は、2カ月以上かけて生徒らが取材や素材集めなどをして書いた記事や写真、グラフィ

ックを、本紙編集企画室と編集局整理部で添削、レイアウトを実施。生徒らがレイアウト端末を使って見出しをつけるなどしてフルカラー4ページの号外を完成させた。また、文化祭の部活紹介のブースでは、本紙を印刷するためのアルミ原版（刷版）を展示するなど、新聞作りの過程を研究、紹介している。研究会高校部長で高校2年生の谷中（あな）さんは「本当の新聞づくりの工程を経験し、大変でしたが面白さを知ることができました」と話した。

実物の新聞と同じサイズの見開きで、1面には学園の長インタビューや同学園の新しい取り組みの紹介記事を掲載。他の面では食堂メニューの人気ランキングや学校周辺の名物飲食店紹介



新聞を教育に活用するNIE（ニュースペーパー・イン・エデュケーション）の一環として、清風中・高校（大阪市天王寺区）の部

活動「NIE研究会」が、産経新聞本紙のデザインを取り入れた号外「清風新聞」5千部を発行し、8日に始まった学園文化祭で来校者らに配布した。9日まで。

研究会の部員は14人。新聞記事の読み比べや内容についてのディベート、読者欄への投稿から新聞作りま